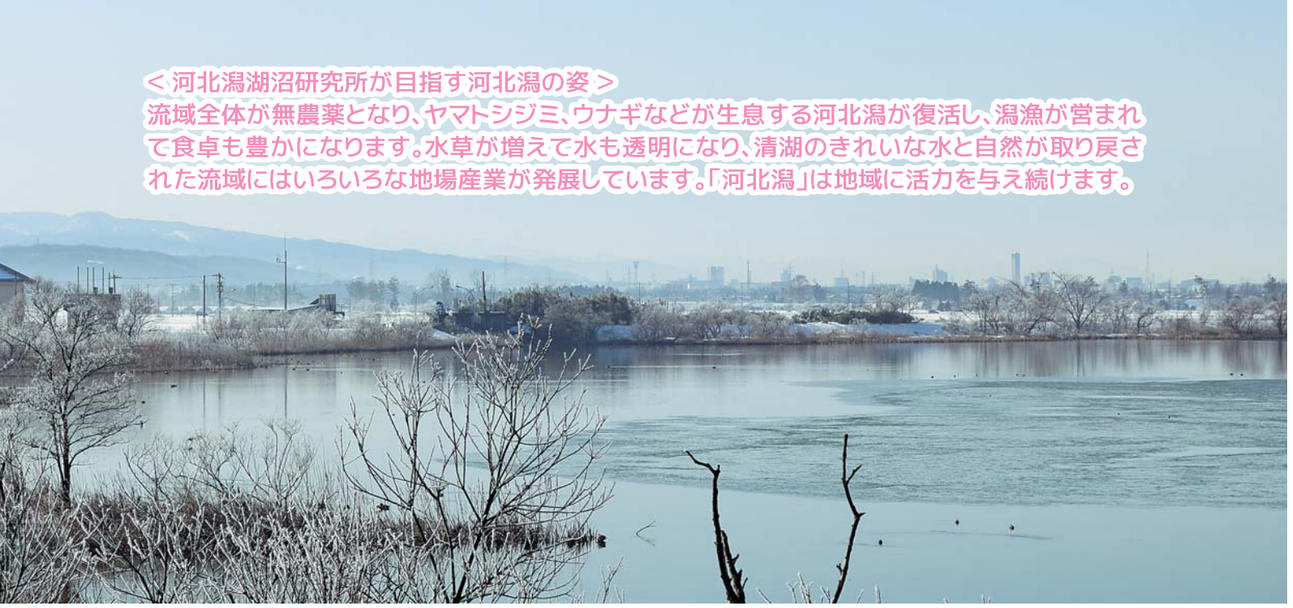
2020年度
年次報告書

流域の森や農地に支えられた汽水生態系の復活により、
河北潟から豊かさを持続的に享受できる地域を目指します。

特定非営利活動法人
河北潟湖沼研究所
Kahokugata Lake Institute



ごあいさつ

コロナ禍の中での新たな可能性

いつも河北潟湖沼研究所の活動にご支援、ご協力をいただき、まことにありがとうございます。

設立から27年目となる2020年度は、コロナ禍に見舞われた1年となりました。とくに市民参加を目指す活動においては、これまでとは異なる対応を取らなければならず、活動のあり方や取り組みの意義を再確認する1年でもありました。

河北潟の環境保全活動への共感を拡げ参加を拡げていくことは、私たちのミッションの1つの柱です。共感を拡げるためには、人と会い話すこと、参加を拡げるためには、手を取って一緒に行動することが重要です。コロナ禍の中、そうしたことが制限されざるを得ない状況が生まれました。

私たちは、これまで続けてきた活動をできる限り中止しないということを基本として、感染対策を万全にするための方法、感染対策を取りながらも楽しめる方法、ふれ合わないでも体験できる方法を探っていきました。さまざまな工夫をすることで、活動の意義を再確認したり、新たな関係が生まれたり、非接触でも密な関係を作ることができるということが分かりました。

例えば、金曜マルシェにおいては、4月時点では開催することに関して外部だけでなく内部からのプレッシャーもありました。私たちは、開催に伴うリスクを分析し、基本の感染対策を徹底することで開催可能と判断しました。以前から分かっていたことですが、金沢駅周辺には買い物に困っている方が多く、緊急事態の中でもオープンなエリアで歩いて買いに来ることができるマルシェがあってとても助かった、という複数の方からの声を聞くことができました。取り組みを続けたことで、安心・安全に生産者と消費者をつなぐというマルシェの基礎的な役割を再認識することができました。

Zoomなどのテレビ会議の活用は、新しい人とのつながりをつくる機会となりました。これまでは、私たちの活動に興味を持っていただいていても距離が遠いためにシンポジウムなどには参加できなかった方が、ネットを通して参加いただけるようになりました。

今年度の成果として、多くの大学生がボランティアやインターンとして活動に参加してくれたことも挙げられます。学校が休校になったことから、学校に代わる学びの場として河北潟湖沼研究所を選んでいただけたことは、私たちにとってはとてもうれしいことでした。

時間差による密にならない田植えなどのイベントの実施により、参加者との親近感はより密になりました。体験イベントにもさまざまな工夫が生まれ、これはコロナ終息後にも活かされてくると思います。

2020年度は厳しい状況もありましたが、これからの可能性も感じることができた1年でした。河北潟湖沼研究所は、引き続き河北潟のビジョンとミッションに基づいて旺盛に活動を展開していく所存です。皆様のさらなるご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

河北潟湖沼研究所　理事長　高橋　久

河北潟を再生したい！

ビジョン実現にむけて河北潟及び大野川での調査をすすめています。また、シンポジウムやセミナーを実施し、河北潟の魅力や問題点について話し合ったり、学んだりする場を作っています。2020年度はオンラインでの実施にも積極的に取り組みました。

課題
河北潟の水がなかなかきれいにならない
流域住民と河北潟との接点が少ない

取組
専門家+市民による調査の実施
流域連携や水田生物等をテーマにしたシンポジウム実施
河北潟をテーマにしたオンライン連続セミナー実施
河北潟総合研究発刊と河北潟研究奨励助成実施

2020年度の成果
大野川汽水域、河北潟湖岸植生の現状把握
シンポジウムやセミナーにのべ259人参加
河北潟総合研究を2巻発行

専門家+市民による調査

前年度に引き続き、一般参加者も募りながら、河北潟の再汽水化に向けた基礎研究をすすめました。河北潟では、富栄養化や透明度の低下が問題となっていますが、私たちは再び海水の入る湖に戻す「再汽水化」が、ひとつの有効な解決方法であると考えています。

2020年度は河北潟と海をつなぐ川・大野川での海水遡上の動態や生物相について、現地調査を実施しました。この中で、河北潟への海水流入が起こっている可能性が示唆されました。また過去の文献を収集し、かつて汽水であった頃の河北潟の自然環境について、情報を収集しました。調査結果や情報をまとめ、今後も調査を継続していきます。

湖岸植生の衰退

陸域の調査として、湖岸断面の現状調査を実施しました。湖岸断面の調査は、2010年に東部承水路や西部承水路を含む河北潟全域、147地点で行っています。2020年度は過去の実施地点のうち、15地点で再度調査を実施しました。

調査地点では、湖岸植生の衰退が進んでいる場所も多く、かつてあったヒメガマ帯が消失して、湖岸の水域が無植生状態になっている地点が多く見られました。湖岸の植生は、さまざまな野生生物にとって大事な場所であり、保全対策が求められます。また、植生以外にも堤防自体の沈下や高水敷の水没、堤防法面の洗掘なども確認されており、治水面からも何らかの対策が求められることがわかりました。

シンポジウム、研修会実施

河北潟流域シンポジウム
多様な主体による流域連携をつくるためには

2021年3月14日(日)13:00～16:00　Zoomによるオンライン開催+視聴会場・近江町交流プラザ集会室

流域全体で、健全な水を生み出す取り組みや水系を活かした自然環境の保全の取り組みを進めるには、地域を構成する多様な主体の連携が欠かせません。どうしたら連携を作ることができるのか、多様な主体を結びつける手法、連携を自然環境保全や再生に繋げる手法、全国の事例について、平山先生、菊地先生にお話しいただきました。また2020年度にプロボノとして活動に協力いただいていた「ふるさとプロボノチーム河北潟」の皆様にも、河北潟での流域連携のアイディアについて、「河北潟流域ツアー」を中心に紹介いただきました。62名の方にご参加いただきました。

*実施にあたり、地球環境基金の助成金を活用させていただきました。

< プログラム >
○主催者挨拶および河北潟での流域連携の課題
　高橋 久(河北潟湖沼研究所理事)
○特別講演　「湖沼環境保全のための流域連携」
　平山奈央子(滋賀県立大学 環境科学部講師)
○特別講演　「自然再生に向けた流域ガバナンスの構築ーコウノトリの経験を基にした鳥の目と虫の目」
　菊地直樹(金沢大学地域政策研究センター准教授)
○事例報告　「河北潟の継続的な環境改善活動(流域ツアー)にむけた施策の提案」
　ふるさとプロボノチーム
○質疑応答とディスカッション
　コーディネーター・永坂正夫(河北潟湖沼研究所所長)

WEBシンポジウム楽しい田んぼの生きもの調査

2021年3月28日(日)14:00～17:00　Zoomによるオンライン開催

河北潟周辺は田んぼが多い地域です。生きものがたくさん住んでいて、農作業も楽しい、そんな田んぼを増やすために、生きものとふれあう楽しさを知り、田んぼの生きものが置かれている現状を知るシンポジウムを開催しました。43人にご参加いただきました。

< プログラム >
第1部　田んぼには生きものがいっぱいいる!?
○挨拶・司会　高野典礼
○田んぼにはどんな生きものがいる?　高橋 久
○田んぼの鳥　中川富男
○七豊米の取り組みで見つけた生きもの　番匠尚子
第2部　みんなで田んぼの生きものを守ろう!
○トンボの避難場所としての田んぼ　大藪愛紗
○生き物調査体験から、人と自然とのつながりについて考える　野村進也
○市民参加型調査を実施して　川原奈苗
○生きもの調査に参加して　樋口恒希
○まとめ　高野典礼

*実施にあたり、ゆうちょ エコ・コミュニケーション寄付金を活用させていただきました。

“いい川”づくり研修会 石川・河北潟
テーマ: グリーンインフラとしての河北潟の将来を考える

主催:NPO法人全国水環境交流会
共催:NPO法人河北潟湖沼研究所

2021年3月5日(金)10:00～15:35　Zoomによるオンライン開催

“いい川”を残すために全国で長年活動されているNPO法人全国水環境交流会が主催する「“いい川”づくり研修会」が河北潟で開催され、河北潟湖沼研究所は共催として参加しました。河北潟の湖岸には、野生生物が息づく貴重な自然環境が残されていますが、ヨシの衰退等危機的な状況もあり、計画的な保全が望まれます。地域の大事な資産である河北潟の自然の豊かさが守られるために、「グリーンインフラとしての河北潟の将来を考える」をテーマに話題提供や討論が行われました。

< プログラム >
○開会挨拶・主旨説明　山道省三(NPO法人全国水環境交流会)
○話題提供　「河北潟の課題と将来構想」　高橋 久(NPO法人河北潟湖沼研究所)
　　「河北潟の管理について」　室谷祥大(石川県土木部河川課)
○講座1「グリーンインフラとしての河北潟」　上野祐介(石川県立大学)
○講座2「包括的再生と河北潟の将来像」　菊池直樹(金沢大学)
○講座3「地域づくり、循環、能登の事例」　森山奈美(株式会社御祓川)
○講座4「新潟市鳥屋野潟での『潟展(がってん)』プロジェクト」　相楽　治(NPO法人新潟水辺の会)
○全体討論

Zoomウェビナーを利用して、完全オンラインでの実施となりました。

河北潟Zoomセミナー実施

コロナ禍でもできる日常の活動として、河北潟の自然や環境、干拓の歴史等、河北潟にまつわる様々なテーマをもうけた連続Zoomセミナーを実施し、のべ80人にご参加いただきました。河北潟を多面的に理解いただく良い機会となりました。

*実施にあたり、ゆうちょ エコ・コミュニケーション寄付金を活用させていただきました。

< 河北潟Zoomセミナー >
第1回「河北潟の干拓事業について」　2020年8月20日
　講師　高橋 久(河北潟湖沼研究所理事長)
第2回「干拓後の環境の変化」　2020年8月24日
　講師　高橋 久(河北潟湖沼研究所理事長)
第3回「河北潟湖沼研究所の発足とあゆみ」　2020年8月27日
　講師　高橋 久(河北潟湖沼研究所理事長)
第4回「河北潟の鳥」2020年9月1日
　講師　川原奈苗(河北潟湖沼研究所副理事長)
第5回「河北潟の水」　2020年9月3日
　講師　高野典礼(河北潟湖沼研究所理事／石川高専)
第6回「河北潟の水郷(昭和初期の様子)」　2020年9月10日
　講師　川原奈苗(河北潟湖沼研究所副理事長)
第7回「日本海側の潟湖」　2020年9月14日
　講師　永坂正夫(河北潟湖沼研究所理事／金沢星稜大学)
第8回「七豊米すごろく」　2020年9月17日
　講師　番匠尚子(河北潟湖沼研究所スタッフ)
第9回「河北潟干拓地農家のなやみ」　2020年9月21日
　講師　藤木正範(河北潟湖沼研究所副理事長)
第10回「内灘砂丘の湧水」　2020年9月28日
　講師　永坂正夫(河北潟湖沼研究所理事／金沢星稜大学)

河北潟研究奨励助成実施

河北潟に関する基礎的学術資料の蓄積を図り地域の持続的な社会のあり方を検討すると共に、地域の研究ネットワークを広げる取り組みとして、専門的知識を持った研究者や学生、持続的社会の実現を目指し活動を続けている方々が取り組む研究を奨励し助成を行っています。2020年度は活動に賛同をいただいた方々からの寄付、事業活動収益を原資として実施しました。

2020年度 河北潟研究奨励助成 決定

申請者　　山本将也
　　(所属:兵庫教育大学大学院学校教育研究科)
助成金額　100,000円
研究課題　環境DNAメタバーコーティングを用いた河北潟に生息する魚類相の解明:東部承水路を対象として

河北潟総合研究第22巻、23巻発行

河北潟湖沼研究所では機関誌「河北潟総合研究」をおおよそ年1回発行しています。2020年度は第22巻と、第23巻・特集号「閉じられた汽水域の現状と課題」を発行しました。22巻では2017年度河北潟研究奨励助成の成果論文も掲載されています。本誌は研究成果普及のため、会員や県内および県外の主な研究機関に配布するほか、WEBで公開し、冊子は販売も行っています。

< 第22巻　目次 >
○河北潟周辺におけるタニシ類の空間分布とマルタニシの再確認(香川 理)
○河北潟における動物プランクトン相の遷移(奥川光治)
○石川県金沢市の赤戸室粘土中の磁性鉱物とその応用・利用
　(田崎和江・松浦明久・佐々木直哉・金 正逸・李 一烈・矢方憲三・竹原照明・奥野正幸・福山厚子・田崎史江)
○石川県金沢市俵町と中山町で発見した高磁性の大型涙石(田崎和江・松浦明久・山本トミ・福山厚子)
○河北潟の自然再生に関する住民アンケート調査結果の分析(高橋 久)

< 第23巻　特集号「閉じられた汽水域の現状と課題」目次 >
○巻頭言　閉じられた汽水域の課題と河北潟の汽水環境の再生可能性(永坂正夫)
○河北潟における再汽水化と流域保全の課題(高橋 久)
○八郎湖の負荷収支からみた汚濁構造と水質・水環境改善への課題(近藤 正)
○宍道湖・中海の現状と課題(竹下幹夫)
○諫早湾潮止め後23年間の有明海底生動物群集の経年変化(東　幹夫・佐藤慎一)
○長良川河口堰をめぐる状況と課題(武藤 仁)
○湖山池の汽水化事業ーその現状と課題ー(日置佳之)
○淡水化した湖としなかった湖～低塩分汽水だった霞ケ浦と宍道湖の現状(山室真澄)

閲覧、購入いただけます

河北潟総合研究はウェブで公開しています。また冊子一部1,000円で販売もしております。河北潟湖沼研究所までお問い合わせください。

河北潟総合研究

農地と生きものをまもりたい！

課題 河北潟地域の田んぼの生きものが減っている、田んぼで使われる肥料や農薬が河北潟の水質汚濁の要因となっている

取組 必要のない農薬を使わない農地を増やし、そのお米を販売
市民参加型田んぼの生きもの調査実施

生きもの元気米

河北潟周辺には田んぼがたくさんあります。しかし現在の田んぼは昔と比べ生きものの種類も数も大幅に減少しています。大きな原因は、殺虫剤の一斉空中散布と、生きもののすみかとなる畦の草をすべて枯らしてしまう畦の除草剤散布だと、私たちは考えています。この問題を解決する取り組みとして、2014年より生きもの元気米を始めました。①農薬の空中散布をしない+浸透性殺虫剤（ネオニコ含む）を使用しない、②畦の除草剤を使わない、という2つの条件で農家と契約し、栽培圃場では河北潟湖沼研究所が生きもの調査を実施し、田んぼ一枚ごとに生きもの元気米認証をしています。農地の生物多様性を保全するとともに、消費者に対し田んぼの生きもの調査結果を公開し、農地の環境保全への意識を高め、安心して食べられる農産物を届ける活動です。

生きもの元気米
圃場面積

2020年 51,548m²

＊稲作田8枚+蓮田（レンコン）6枚

市民参加型・田んぼの生きもの調査

2019年度より市民参加型の田んぼの生きもの調査を実施しています。2020年度はツバメのねぐら入り観察会のあとに、夜のライトトラップ調査を行いました。学生インターンにも協力いただき、一斉空中散布前後の生物調査も実施しました。

食べてくださる皆様のおかげで継続できます

生きもの元気米は、活動に賛同し参加してくれる農家さんと、このお米を選んで購入し、食べてくださる皆様のおかげで継続、拡大できる環境保全活動です。個人でご購入いただいている皆様のほか、飲食店を展開する株式会社こよみさんでもお店のメニューで生きもの元気米を使っていただいています。皆様応援ありがとうございます。

＊市民参加型調査の実施にあたり、「ゆうちょ エコ・コミュニケーション」寄付金を活用させていただきました。

2020年度の成果

生きもの元気米生産量の増加
市民参加型田んぼの生きもの調査にのべ56人参加

生きもの元気米生産量

2014年 1.6トン → 2019年 6.7トン → 2020年 7.5トン

生きもの元気米情報はこちら

持続可能な農業をまもりたい！

課題 農家の高齢化や大規模農業化で、農地に関わる人が減り、農地の細やかな手入れが難しくなっている

取組 農地での協働作業を実施。農地と市民をつなぐ田んぼ作業体験や、農家、企業、市民、NPO協働で水路保全活動実施

七豊米

七豊米は、農薬・化学肥料を使わず栽培しています。2012年より開始し、日々の農作業はスタッフとボランティアで行い、田植えや稲刈りでは体験イベントも実施しています。除草、畦塗り、苗代作り、田植え等農作業を体験し、地域に昔からある米作りの技を学ぶ場、農地の環境や生きものについて学んでいただける場として、人と農地をつなぐ窓口となっています。そして田んぼや土水路の生きものを守ることをめざし、2枚の田んぼ（約1400m²）で活動を継続しています。ここで収穫したお米、また活動そのものを「七豊米」と呼んでいます。2020年は水田内に雑草が増え、収量がこれまでで一番少なくなり、生産と生物多様性の保全の両立が課題となりました。また、密にならないよう時間差を設けて農作業を実施する等、感染症対策も行いながら活動を実施しました。

2020年度の成果

七豊米田んぼ作業にのべ107人参加
田植え、観察会、稲刈りイベントを実施

外来植物除去活動

河北潟周辺の水辺、沿岸の田んぼの水路では、外来植物チクゴスズメノヒエが広がり、水の流れをふさいだり、在来植物の生息場所を奪うなどの問題があります。河北潟湖沼研究所は他団体と協力しながら、実施場所の選定、対象植物の調査や記録、活動当日の実施運営等を行っています。河北潟干拓地の水辺では、ヨシ群落に入るセイタカアワダチソウの除去も行いました。除去活動を継続実施している場所では、群落の面積は徐々に小さくなってきています。

実施：河北潟地区外来植物対応方策検討会、河北潟の水辺を守り隊、グリーン・アース農地・水・環境保全組織、協力：河北潟湖沼研究所

2020年度の成果

協働で4日間、水路および周辺の外来植物除去活動を実施、のべ54人参加

潟と砂丘と人で環をつくりたい！

課題 河北潟や周辺農地と都市部を近づけたい、内灘砂丘地の畑で使われる農薬や肥料が河北潟の汚濁負荷の一因となっている

取組 金沢市中心部で農産物を通じて河北潟や活動をPR
内灘砂丘地の畑で野菜を無農薬、無化学肥料栽培

すずめ野菜

河北潟のとなりにある内灘砂丘地の畑で、農薬や化学肥料を使わず野菜を栽培しています。河北潟には内灘砂丘からも水が流れ込んでいます。砂丘地の畑で農薬や肥料の量を減らしていくことは、河北潟の水質改善にもつながります。河北潟と内灘砂丘で、よい水の循環を作り、地域の環境問題が改善することを目指しています。2020年は約50種類の野菜を生産し、ゆうぐれ金曜マルシェでの直接販売や直売所での販売等を通じて、河北潟地域の農産物として、環境保全活動とともにPRをおこなっています。

金沢駅西ゆうぐれ金曜マルシェ

金沢駅西イベント広場で、「農家が届けるおいしい週末」をコンセプトに、冬季を除いた毎週金曜夕方、河北潟周辺や干拓地で栽培された農産物を金沢駅周辺住民に直接届けるマルシェを実施運営しています。2020年は4月から11月まで34回実施し、農産物と共に河北潟の自然や環境保全活動も紹介しています。マルシェを通じて活動に興味を持ち、イベントに参加される方もおられ、都市部住民と交流する窓口となっています。

ゆうぐれ金曜マルシェ

2020年度の成果

無農薬での野菜栽培を継続し、ゆうぐれ金曜マルシェでの販売やイベント等を通じて、河北潟の農産物や自然をPR

ゆうぐれ金曜マルシェを34回実施

河北潟流域全体の保全を進めたい！

課題 流域単位の取り組みが遅れている、連携の仕組みがない

取組 流域の連携を作るための他団体との協働の取組実施、
上中流域も含めた流域全体で取り組むイベント企画

河北潟流域ツアー

河北潟流域への理解を深めるため、保全活動や自然環境について学べるプログラム作成を展望しています。2020年度は地元の団体や町会の方々の協力も得ながら、試験的に3回実施し、計76名の方に参加いただきました。

① 津幡の水辺を歩いて観察しよう

2020年10月18日（日）実施

河北潟とつながる津幡川流域で、上流にある「しょうず」から、小さな水路、津幡川、河北潟東部承水路と水の流れを歩いてたどり、動植物や、昔の津幡川の河道跡を見てまわり、川の形がどう変わり、どういう歴史があるのか、見ていきました。宮本眞晴氏に歴史解説の講師として参加いただき、自然観察と歴史解説の両方を楽しんでもらえるツアーとなりました。

② 河北潟野鳥観察会

2021年1月31日（日）実施

河北潟干拓地、河北潟の沿岸部を周り、野鳥を観察してまわりました。実施にあたり、日本野鳥の会石川、森の都愛鳥会、グリーン・アース農地・水・環境保全組織と連携し、野鳥に詳しいメンバーが複数参加し、詳細な解説がなされました。

③ 水辺の生物多様性ホットスポットを探そう

2021年3月20日（土）実施

河北潟東部にある津幡町井上の荘の住宅街と田んぼの間にある水路から、河北潟東部承水路まで、水辺の生物を探しながら、観察してまわりました。実施にあたり地元住民や行政の方にも協力をいただき、新たな交流を作ることもできました。

＊河北潟流域ツアー実施にあたり、地球環境基金の助成金を活用させていただきました。

河北潟クリーン作戦

主催：河北潟クリーン作戦実行委員会
事務局：河北潟湖沼研究所

毎年4月に数百名規模で実施している河北潟の一斉清掃活動です。河北潟湖沼研究所は事務局として実行委員会の開催、関係機関との調整や連絡、チラシ製作等を行っています。2020年は4月に実施予定でしたが、新型コロナ感染症の拡大により、討議の結果、直前で開催中止となりました。しかしゴミはたくさんあるため、事務局と数名のボランティアの方とで小規模なゴミ拾いを実施しました。2021年1月からは、2021年4月の実施に向け、事務局として活動を継続しています。

河北潟自然再生まつり

主催：河北潟自然再生まつり実行委員会
共催：河北潟湖沼研究所

毎年秋に開催され、河北潟地域で環境保全活動を行っている団体が集まり、活動をPRするとともに色々な体験プログラムを行っています。2020年はコロナ禍の下、議論を重ねて開催にいたり、10月25日（日）に実施、約250名に参加いただきました。河北潟湖沼研究所は準備段階から中心としてかかわり、実行委員会の開催や他の共催団体との調整、広報等を行い、また当日は複数のプログラムを実施しました。

2020年度の成果

流域ツアーに計76人参加、河北潟自然再生まつりに250人参加

流域の他団体と協働により、流域の保全活動や自然環境について理解を深めることができた

ご支援、ご寄付ありがとうございます

河北潟湖沼研究所の活動は、たくさんの方々のご支援、ご寄付、ご協力で成り立っています。2020年度は全体で584,416円のご寄付を賜ることができました。また事業活動の面からも団体、企業等のみなさまからご支援をいただきました。活動ではたくさんのボランティアの皆様にご協力をいただきました。温かいご支援に心より感謝申し上げます。

■ご寄付をいただきました

●ゆうちょ エコ・コミュニケーション　500,000円

●その他個人及び団体のみなさまより　計84,416円

■助成金を活用させていただきました

●地球環境基金　3,000,000円

活動名：流域がつながる仕組みを活用して、河北潟流域の水辺保全活動を推進する地域産業を拡大する

■プロボノ支援をいただきました

●サービスグラント　ふるさとプロボノ

内容：未来につながる河北潟流域ツアーの提案

認定NPO法人サービスグラントによる「ふるさとプロボノ」を通じて、5名の方にプロボノとして参加いただきました。

河北潟湖沼研究所では河北潟流域の資源を生かし、流域連携をすすめるため、「河北潟流域ツアー」の展開を模索中です。この内容や実施方法について、調査や分析、ご提案をいただきました。期間中は河北潟での活動体験、関係者へのヒアリング等もおこなっていただき、これらを通じて、「未来につながる河北潟流域ツアー」を提案いただきました。内容の一部は、3月14日に実施した河北潟流域シンポジウムでも発表いただきました。

■ボランティアのみなさまによる活動支援

活動やイベントの実施において、体験農地の整備や、イベントの準備片付け、運営スタッフの補助等で、ボランティアの皆様のご協力をいただきました。

七豊米田んぼは、たくさんのボランティアの方とともに米作りをしています。

河北潟自然再生まつりは地域の皆様と協力して実施しています。

ゆうちょ エコ・コミュニケーション寄付金を活用した田んぼの生きもの観察会。

地球環境基金助成活動の河北潟流域ツアー。

プロボノの皆様とヒアリング実施時の様子。

様々な形でのご支援、ご協力、誠にありがとうございます。

2020年度決算報告

貸借対照表

2021年3月31日

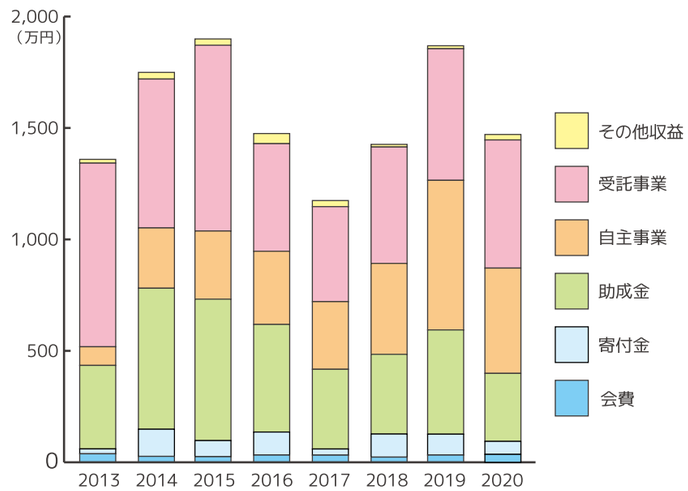
項目	金額（円）	
資産の部		
【流動資産】		
現現金及び預金	1,837,829	
売掛金	2,858,364	
未収補助金	1,487,000	
商品（元気米在庫）	410,000	
未収入金	1,858	
流動資産合計		6,595,051
資産の部合計		6,595,051
負債の部		
【流動負債】		
短期借入金	1,050,000	
未払金	416,239	
未払法人税等	71,000	
預り金	82,912	
流動負債合計		1,620,151
負債の部合計		1,620,151
正味財産の部		
【正味財産】		
前期繰越正味財産		6,381,610
当期正味財産増減額		△ 1,406,710
正味財産の部合計		4,974,900
負債及び正味財産合計		6,595,051

活動計算書

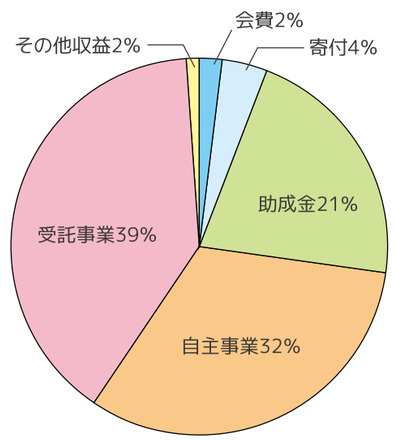
自　2020年4月1日　至　2021年3月31日

科目	特定非営利活動にかかる事業	その他の事業	合計（円）
【経常収益】			
受取会費	355,000		355,000
受取寄付金	584,416		584,416
受取助成金等	3,050,000		3,050,000
事業収入	8,136,726	2,493,640	10,630,366
受取利息	21		21
その他収益	88,729		88,729
経常収益合計	12,214,892	2,493,640	14,708,532
【経常費用】			
事業費			
人件費	6,992,171	920,809	7,912,980
その他の費用			
売上原価	2,233,616		2,233,616
租税公課	200	1,800	2,000
地代家賃	46,056		46,056
諸会費	9,000		9,000
諸謝金	365,117		365,117
リース料	272,000	1,127,200	1,399,200
印刷製本費	534,797		534,797
荷造運賃	352,861		352,861
外注・委託費	93,293	52,800	146,093
修繕費	9,669		9,669
研究事業費	368,000		368,000
賃借料・役務費	648,000		648,000
支払手数料	340,759	7,304	348,063
通信費	16,984		16,984
旅費交通費	736,630	120,000	856,630
消耗品費	695,621	99,555	795,176
経常費用合計	13,714,774	2,329,468	16,044,242
法人税・住民税及び事業税		71,000	71,000
当期正味財産増減額	△ 1,499,882	93,172	△ 1,406,710
前期繰越正味財産	6,183,495	198,115	6,381,610
正味財産合計			4,974,900

経常収益推移（2013～2020年度）



2020年度 経常収益割合



河北潟湖沼研究所の活動は、皆様のご支援で成り立っています。
一緒に活動してくださる方、応援してくださる方を待っています。

会員になる

会員を随時募集しています。入会ご希望の方は下記連絡先までお問い合わせください。

●一般会員　　年会費　個人12,000円、法人24,000円
研究所の活動目的に賛同いただける方はどなたでも会員になることができます。一般会員は研究所の活動、運営にかかわることができます。活動案内や通信、刊行物等も届きます。

●友の会会員　　年会費　2,000円
どなたでも気軽に参加できる枠組みです。会員には活動案内や通信、刊行物等が届きます。

寄付をする

郵便振替、銀行振込、クレジットカードでのご寄付で当研究所の活動をご支援いただけます。
使途を指定してのご寄付も可能です。

●郵便振替　　ゆうちょ銀行（振替口座）　00730-1-48345
加入者名 特定非営利活動法人河北潟湖沼研究所
＊通信欄に寄付金とご記入ください。ご住所とお名前を必ずご記入ください。

●銀行振込　　楽天銀行　第一営業支店　普通　093010
口座名義:トクヒ)カホクガタコショウケンキュウジョ

●クレジットカード　下記URLより決済ページにおすすみください。
http://kahokugata.sakura.ne.jp/donation.shtml

寄付ページ

購入する

生きもの元気米やすずめ野菜等を下記ショップよりご購入いただけます。

●河北潟湖沼研究所のお米屋さん（生きもの元気米・七豊米等）
http://kahokugata.cart.fc2.com/

●すずめ野菜
http://suzumeyasai.cart.fc2.com/

お米屋さん　　すずめ野菜

参加する

調査研究、保全活動、体験イベント等へのご参加をお待ちしています。活動情報は研究所HPやSNS、メールマガジン等でご案内していますので、フォローや登録をお願いいたします。
また日常活動へのボランティア参加もお待ちしております。お気軽にメールやお電話でお問い合わせください。

NPO法人河北潟湖沼研究所（かほくがたこしょうけんきゅうじょ）
〒929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ9-9
電話076-288-5803　fax076-255-6941
E-Mail info@kahokugata.sakura.ne.jp
URL　http://kahokugata.sakura.ne.jp
●Instagram･･･kahokugata_lake_institute
●twitter･･･@kahokugatalake
●facebook･･･kahokugatalake